

# 英語科学習指導案

令和2年11月6日（金）2校時  
3年1組 男子20名 女子15名 計35名  
指導者 奥 健太 高木 正子

## 1 単元名 POWER-UP 6 Writing 「ホームページで学校紹介」

## 2 単元（題材）について

### （1）ねらいについて

本単元は、「ホームページで学校紹介」の学習活動を通して、「書くこと」の力をつけるための単元となっている。まず、学校行事や部活動等について書かれた本文の内容を十分に理解させたい。次に、生徒自身が学校の経営者となり、夢のような学校「Dream School」を考えさせる。その際、マッピングの思考ツールを使って、校種・授業・特色ある取組などの項目について、自分の考えを書かせる。そして、既習の語彙や文法事項等を使い、また未習のものについては、Web 辞典を参考に英文を作成させる。この学習活動を通しては、生徒が「こんな学校があったらいいな」と想像力を働かせ、楽しく活動することで、「思考力・表現力・判断力」を身につけることができる活動であると考えられる。

また、一方向の紹介文を作成することだけでなく、双方向のやりとりの場面を設定し、生徒がさらに詳しく知りたい情報やわかりにくい表現については、互いに検討し合うことで英語の表現をより具体的なものに発展させることができると考える。

このような学習活動を通して、新学習指導要領の柱でもある生きるための「知識および技能」の習得、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の育成につながると考える。

### （2）系統について

本単元では、第1学年で学習した「人を紹介しよう」、第2学年で学習した「スキット作りを楽しもう」「CMを作ろう～こんなものがほしい」と関連した学習となっている。これらの活動を通して、第3学年では生徒は既習の文法事項を使って自分の考えを分かりやすく伝えるための表現方法についての学習をさらに深める機会を多く設定してきた。生徒は想像力を働かせ、ペアと協力し英文を作る楽しさ、友達の発表を聞いて理解する楽しさを感じることができたのではないかと考えられる。

これまでの学習でICTの活用も取り入れ、多くの単語や文法を習得してきた。さらに、生徒の得意・不得意の部分でICTを活用させ、想像力豊かな充実した「書くこと」の活動につながることを期待している。

### （3）生徒の実態

本生徒は明るく、穏やかな雰囲気です。何事にもねばり強く取り組む。普段の授業においては、男女間の仲も良く、お互いを高め合う関係を築くことができることから、自分の知っている単語を使って、英会話をしようと意欲的に取り組む姿勢が多く見られる。夏休みの課題等も含め、毎日の家庭学習に熱心に取り組んでいる。

しかし、英文を読んで内容を理解したり、単語を覚えたりすることを得意とする生徒が多い反面、まとまった英文を読んで内容を理解したり、自分のことを英語で書いたりすることを苦手とする生徒も多い。このことから、これまでの授業においても、苦手を克服するために、重

点的な指導を行い、改善も見られている。本時においては、英文を作る苦手意識を少しでも取り除き、タイピング入力を書くことへの負担を少しでも軽減できるのではないかと考える。このような活動を通して、自分の考えを英語で伝えることの楽しさに気付く授業になればと願い、授業の構想を立てた。

#### (4) 指導上の留意点

本単元の指導にあたっては、生徒自身が「こんな学校があったらいいな」と想像力を駆り立て、胸を躍らせるような活動になるようタスクを設定した。班内で考えたことをもとに、魅力的な英文になるよう意見交換をし、合意形成を図るような授業にする。一人一台タブレットを使用し、授業支援ソフトで原稿を作成し、発表させる。その際、必要に応じて静止画や動画を取り込み、より効果的なプレゼンになる手立てとしたい。

そして、協働学習をすることで一人一人が役割をもち、授業に参加しているという意識を持たせたい。また、互いに意見を出し合いながら、協力してまとめることで学習を深めさせるとともに、それぞれが作成した英文を班の発表としてどう生かすか、思考力・表現力・判断力を養わせたい。

さらに、各自で英文を作成したあと、その英文が正しいか班内で確認する際には、翻訳機を活用することも手段の1つであることを教える。それについては、賛否両論あるだろうが、「自分の考えを英語でどのように外国の人々に伝えるか」という手段において有効な方法であると考え。情報化時代を担う子どもの育成という面から、情報機器や様々な学習ソフトを使った授業展開をし、プレゼンテーション能力の基礎を養いたい。

### 3 単元（題材）の目標

- ・ 教科書本文の内容を理解することができる。
- ・ 自分が理想とする学校「Dream School」をグループで考え、自分の担当箇所を授業支援ソフトを使って英文にすることができる。
- ・ 班のメンバーの英文を読んで添削したり、より良い発表内容にしたりすることができる。
- ・ 完成した「Dream School」をみんなの前で発表することができる。

### 4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班内での自分の役割をしっかりと果たそうと、意欲的に活動している。</li> <li>・ 班内で協力して活動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集めた情報をもとに分かったことを相手に伝わるように書くことができる。</li> <li>・ プレゼンの内容が魅力的になるように工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手の伝えようとする情報を正しく理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ It's～for～to～の構文や受動態、If(条件節)などの既習文法を活用して英文を作ることができる。</li> </ul>

5 指導計画及び具体的な評価規準（全4時間）

時	学習活動	指導上の留意事項	具体的な評価規準 評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の本文の内容を理解する。</li> <li>個人で[Dream School]の構想を考える。班内で各自の考えを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまりのある文章の構成に注目させ、内容を理解させる。</li> <li>生徒の興味をひきたてる発問をし、イメージをふくらませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの設問にきちんと答えられているか。</li> <li>ワークシートを回収し、内容を見て評価する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>班の発表の構成を考える。</li> <li>班内で自分の担当する部分を英文で書き、授業支援ソフトで資料を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表の構成例を示す。</li> <li>机間巡視をし、生徒からの質問に答える。</li> <li>生徒のパソコン操作を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表の構成がしっかりしているか。</li> <li>作成したものを提出させ、内容を見て評価する。</li> </ul>
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>[Dream School]の名物行事を班で分担して作成し完成させる。</li> <li>代表の班が完成したプレゼンを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視をし、生徒からの質問に答える。</li> <li>生徒のパソコン操作を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班のメンバーと協力して取り組んでいるか。</li> <li>作成したものを提出させ、評価する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>できあがったプレゼンを発表する。</li> <li>他の班の発表を聞いて、内容を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表後に、その発表の良さを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大きさ、英文の正確性、プレゼンの構成がしっかりしているか。</li> <li>発表をビデオに撮って評価する。</li> </ul>

6 単元（題材）全体での ICT 活用と情報活用能力の育成

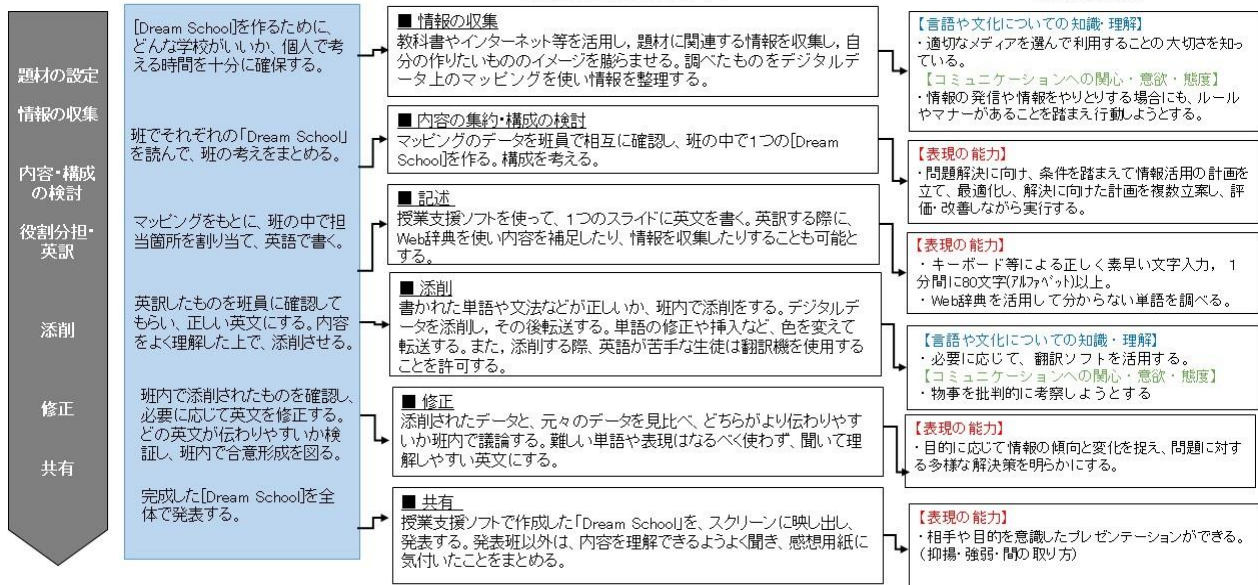
中学校 外国語

単元レベルでの問題解決・ICT活用と情報活用能力育成の位置付け

第3学年・外国語・[Dream School] を作ろう。

生徒のICT活用のポイント

情報活用能力



参考：文部科学省 H30年度次世代の教育情報化推進事業「情報教育の推進等に関する調査研究」。作成：九州教育情報化研究会、鹿児島大学大学院山本研究室

## 7 本時の展開 ( 3 / 4 時間)

### (1) 本時の目標

- ・ 「Dream School」の担当箇所を英語で書くことができる。
- ・ 班員の英文を読んで、より良い英文に添削することができる。
- ・ 「Dream School」を完成させることができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点 ☆評価	□ ICT 活用の意図 ◆ 情報活用能力の育成
<p>1 Warm-up</p> <p>英単語ドリルソフトを使用し、既習の基本表現を復習する</p>	<p>○机間指導をし、タブレットの操作に慣れない生徒を支援する。</p>	<p>□タブレットを使うことで効率良く既習文法の復習を行う。</p>
<p>2 Today's goal</p> <p>本時の目標を確認する。</p> <p>3 Writing</p> <p>各班で「Dream School」の名物行事を英語で書き、完成させる。</p> <p>4 Correction</p> <p>班のメンバーで完成した英文を添削する。</p> <p>5 Rewriting</p> <p>添削された英文を見て、「Dream School」を完成させる。</p> <p>6 Sharing</p> <p>グループの代表が完成した英文を発表する。</p>	<p>Today's goal</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>授業支援ソフトを使って [Dream School] の英文を完成させよう。</p> </div> <p>○分からない単語のみ Web 辞典で調べさせる。作成した英文を互いに見せ合う。 ☆自分の担当箇所を英文になおそうとしているか。</p> <p>○班の中で、添削した文が本当に正しいか班内で判断させる。翻訳ソフトを使うことも可能とする。</p> <p>○班で訂正内容を確認・検証し英文を修正して完成させる。 ☆修正箇所について自分の考えを伝え、合意形成を図ることができたか。</p> <p>○スムーズに発表できるよう支援する。 ☆発表内容が正しい内容になっているか、魅力的な内容になっているか確認する。</p>	<p>□Web 辞典を使うことで効率的に意味を調べることができる。 ◆キーボードによる正しく素早い文字入力ができる。</p> <p>□翻訳ソフトを使うことで効率良く英文の添削ができる。</p> <p>◆キーボードによる正しく素早い文字入力ができる。</p> <p>□授業支援ソフトで写真や動画を使うことにより、より魅力的なプレゼンにすることができる。</p>
<p>7 Evaluation</p> <p>自己評価を行う。</p>	<p>○本時の授業を振り返らせ、自己評価させる。また、次時の発表に向けて意欲を高めさせる。</p>	<p>□集計ソフトを使うことで、生徒の実態把握が簡単にできる。また、それを今後活用することができる。</p>

### (3) 本時の評価

- ・ 「Dream School」の担当箇所を英語で書くことができたか。
- ・ 班員の英文を読んで、より良い英文に添削することができたか。
- ・ 「Dream School」を完成させることができたか。